

永野太造作品展

A photographer
at the pioneer days of Nara NRICP

草創期の奈文研を支えた写真家

2017. 4/29 sat ~ 5/31 wed

岡寺 塑像大如意輪観音(撮影 永野太造)

ごあいさつ

現在の奈良文化財研究所は、奈良国立文化財研究所として、昭和二十七年（一九五二）に、南都・奈良に残る多数の古建築や古美術品を総合的に調査・研究するため設置されました。当時、奈良国立博物館東側にあった永野鹿鳴荘を営んでいた写真家永野太造氏は、奈文研草創期の十五年間にわたって調査に同行し、写真撮影をおこないました。奈文研の写真台帳に最初に登録された写真も氏によるものあり、氏が撮影した一二九二枚もの文化財写真が奈文研に残されています。

今回、たくさんのがラス乾板や仏像写真パネルなど、氏に関わる資料を所蔵されている帝塚山大学と「永野太造作品展－草創期の奈文研を支えた写真家－」を共催いたします。

氏の写真には、草創期の奈文研の研究活動の一端や、昭和三十年代を中心とする時期の文化財を取り巻く状況が切り取られて残されています。今回の展覧会で、あまり知られていない草創期の奈文研とそれを支えた写真家に光をあて、文化財保護の歴史の一端を振り返ってみたいと思います。

最後になりましたが、共催していただきました帝塚山大学と、写真の展示をご許可いただきました各寺院をはじめとする関係機関・関係者の皆様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成二十九年四月

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所長 松村恵司

凡例

1. 本シートは、奈良文化財研究所平城宮跡資料館でおこなう平成29年度春期企画展「永野太造作品展－草創期の奈文研を支えた写真家－」（会期4月29日～5月31日）にあわせて編集したものである。
2. 本展覧会は、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室が企画、実施し、帝塚山大学が共催した。また、国土交通省近畿地方整備局飛鳥歴史公園事務所、近畿日本鉄道株式会社の後援を賜った。
3. 本展覧会の開催とシートの作成にあたっては、下記機関、寺社の協力を得た。
　　国立歴史民俗博物館、東京大学史料編纂所、多賀町教育委員会、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館、岡寺、海住山寺、興福寺、西大寺、大安寺、唐招提寺、東大寺、胡宮神社
4. 本シートの作成は、展示企画室の加藤真二（本文執筆）、三輪仁美（現・宮内序書陵部、本文執筆）、田中恵美、廣瀬智子（編集・画）、福島冠如がおこなった。
5. 本展覧会に展示した写真は、奈良文化財研究所、帝塚山大学が保管・所蔵する永野太造氏撮影のガラス乾板をデジタルデータ化し、プリントアウトしたものである。データ化にあたっては、奈良文化財研究所企画調整部写真室の中村一郎、鎌倉綾の全面的な協力を仰いた。
6. 本展覧会の開催、本シートの作成にあたっては、次の方々の協力を得た。あつく感謝いたします（五十音順）。
　　鷺森浩幸、清水昭博、永野文男、服部敦子、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館の皆様

当時の奈文研春日野庁舎

永野 太造 プロフィール

大正十一年（一九二二）大阪市生まれ。

戦後、伯父夫婦が営んでいた奈良国立博物館本館東の茶店を継ぐ傍ら、独学で写真を始める。やがて奈良国立文化財研究所小林剛氏らの依頼で文化財調査に同行して写真撮影に携わり、戦後の奈良を代表する仏像写真家の一人として活躍した。

『奈良六・大寺大観』、『大和吉寺大観』

（岩波書店）などの美術全集をはじめ多くの美術書に作品が掲載されている。

また、観光ポスター「奈良大和路」シリーズのうち、昭和三十一年（一九五六）に制作された「東大寺法華堂月光菩薩像」は、翌年の世界観光ポスター展で最優秀賞を受賞した。

平成二年（一九九〇）に逝去、享年六十
八歳。

岡寺

仁王門

塑造如意輪觀音坐像

懸額

奈文研所蔵乾板

岡寺

仁王門

塑造如意輪觀音坐像

懸額

奈文研の写真台帳に最初に登録されたのは、意外にも奈良市内から離れた奈良県明日香村にある岡寺（龍蓋寺）の一連の写真です。仁王門の写真が登録

第一号（登録番号 510-1）。

撮影日は奈文研が設置された昭和二十七（一九五二）年度の一九五三年二月六日、撮影者は永野太造。

本堂に鎮座する塑造如意輪觀音坐像は、塑像としては日本最大のもので、奈良時代の作。

懸額は鎌倉時代のもので、弘法大師空海によるものとされていました。



唐招提寺 鑑真和上坐像

帝塚山大学所蔵乾板

唐招提寺 金堂千手觀音立像

奈文研究所蔵乾板

唐招提寺 金堂諸仏

唐招提寺総合調査は、昭和二十九・三十五・三十六

年度におこなわれました。天平期の代表的な彫刻である鑑真和上坐像も撮影されました。

唐招提寺 金堂西鷗尾
唐招提寺 金堂東鷗尾

奈文研究所蔵乾板

唐招提寺

金堂帝釈天立像台座裏落書

帝塚山大学所蔵乾板

奈文研究所蔵乾板

千手觀音立像は奈良時代の傑作とされ、実際に千本の手があつたと考えられます。盧舍那仏坐像を中心には、奥に藥師如來立像、手前に千手觀音立像が並ぶ写真では、奈良時代を彷彿させる厳かな雰囲気が感じられるとともに、天井をふくめ、当時の金堂内陣の状況がよくわります。

永野氏自身が金堂の屋根にのぼって写真撮影したことことがわかります。西の鷗尾は、創建期の天平の甍。
東の鷗尾は、写真にも見てとれる刻字により鎌倉時代の元亨三年（一三二三）の補作であることがわかります。ともに平成の大修理によつて取り外され、現在は、新宝蔵に安置されています。

奈良時代の絵画資料として貴重なものになつています。

唐招提寺

勅額
ちょくがく

帝塚山大学所蔵乾板

寺伝では、講堂あるいは中門に掲げられていましたとされています。東大寺西大門のものとともに、今に残る奈良時代の扁額で、その文字は孝謙天皇の宸筆と伝えられています。現在は新宝蔵に移されています。

唐招提寺

金堂

中枢伽藍遠景（北東側から）
ちゅうすうがらんえんけい（ほくとうせきから）

経蔵と宝蔵
きょうぞうとぼうぞう

鼓樓と礼堂
がいろうとらいどう

戒壇

帝塚山大学所蔵乾板

これらの永野氏の写真は、当時の伽藍の状況を切り取っています。戒壇などは、現在整備されています。

西大寺

如意輪観音半跏像
にょいりんかんのんはんかぞう

帝塚山大学所蔵乾板

西大寺の総合調査は昭和三十年度に着手されました。如意輪観音半跏像は、現在、聚宝館でご覧になります。



西大寺

大和国添下郡京北班田図

やまとくにそうのしもぐんけいほくはんでんず

奈文研所蔵乾板

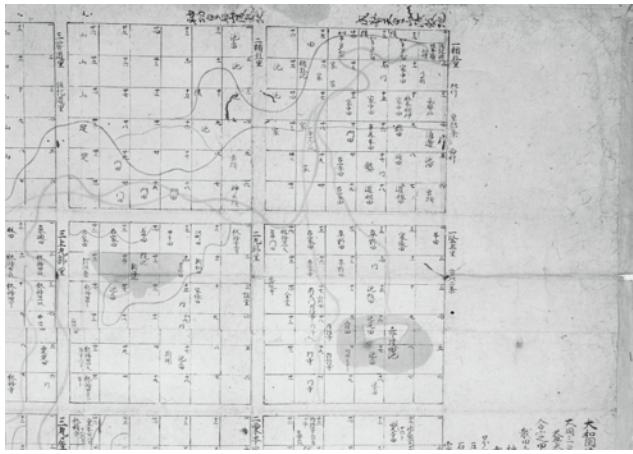
永野氏が撮影した六枚の写真を合成しました。西大寺の寺領を示すために、中世に奈良時代末から平安時代初頭ごろの班田図をもとにつくられたこの図は、北浦定政以降、平城京北限、特に「北辺坊」の存否に関する基礎的資料となっています。

西大寺

愛染堂木造叡尊（興正菩薩）坐像

奈文研所蔵乾板

戒律の振興と西大寺の復興で知られる興正菩薩叡尊は、重源とともに奈文研により重点的に調査研究されました。その成果は、『西大寺叡尊伝記集成』（昭和三十一年 史料第二冊）などをはじめとする多くの書籍、論文として発表されました。



大安寺資材帳

奈文研所藏乾板

工芸室長のち所長)により『仏師運慶の研究』(昭和二十九年学報第一冊)、『巧匠阿弥陀仏快慶』(昭和三十七年学報第十二冊)が公刊されています。

大安寺の調査では、美術工芸品、古文書典籍、建造物の調査に加え、南門・中門(昭和二十九年)や僧坊・軒廊(三十一年)の発掘調査も行われました。十一面觀音は本堂の本尊。奈良時代の作で、平素は秘仏です。正面からお顔をクローズアップした写真です。

東大寺
東大寺
南大門
大仏殿

東大寺
東大寺

法華堂
不空羈索觀音立像
鐘樓

帝塚山大学所藏乾板

東大寺
南大門金剛力士像(阿形像)
東大寺
俊乗堂阿弥陀如來立像

奈文研所藏乾板

草創期の奈文研の調査研究の大きな柱である「南都諸大寺等の調査」のため、東大寺については、さまざまな調査をおこなつてきました。今回展示する写真の多くは、奈文研設立直後の昭和二十七~二十九年に撮影されたものです。現在の南大門には「大華嚴寺」の扁額がかけられています。また、写真では、大仏殿の南

南大門の金剛力士像の制作を指揮した運慶、また、運慶とともに阿形像を制作するとともに、俊乗堂阿弥陀如來立像などの多数の阿弥陀如來像を制作した快慶。重源の東大寺再興事業に加わったこの二人の快慶。

鎌倉時代の仏師については、小林剛氏(奈文研美術

面に舞台のようなものがみられます。

頭塔 石仏

奈文研所蔵乾板

飛火野近くにある頭塔は、その後、長期にわたり、奈文研が中心となつて発掘調査と復元整備に取り組みました。

東大寺 俊乗堂俊乗房重源上人坐像

帝塚山大学所蔵乾板

南無阿弥陀仏作善集 胡宮神社 僧重源仏舍利送状

奈文研所蔵乾板

東大寺 阿弥陀悔過料資材帳 (一卷 重要文化財)

奈文研所蔵乾板

東大寺阿弥陀堂でおこなわれた阿弥陀悔過に使用された法具や資材などの宝物を列記した目録です。

まず記載品目の目録を掲げ、次にそれらを編入別にして詳細に品目を列記し、個々に法量や特徴を注記、

さらにそれらのうちの破損したものや失われたものを摘録するという構成になっています。巻末には神護景雲元年(七六七)八月三十日の年紀と、資財帳の作成にあたった役僧(寺の事務を扱う僧)の署名

鎌倉時代初頭に東大寺再興を進めた俊乗房重源については、南都諸大寺の調査研究の一環として、昭和二十七～三十五年度に重点的に調査・研究をおこないました。南無阿弥陀仏と号した重源の善行の業績を列記した『南無阿弥陀仏作善集』については、東京大學史料編纂所が所蔵するものをコロタイプ印刷して、

史料第一冊(昭和二十九年)として公刊しました。
写真は、その際に永野氏が撮影したもの。

また、『俊乗房重源史料集成』(昭和三十九年史料第四冊)を公刊したほか、小林剛氏が『俊乗房重源の研究』(昭和四十六年)を出版しました。

景雲三年」「宝亀四年」「宝亀九年」とあり、役僧の署名も自筆とは認められないことから、神護景雲元年に作成された資財帳をもとに、宝亀九年（七七八）以降、作り直されたものと考えられています。

「悔過」は、犯した罪や過ちを反省し、罪報を免れることを求める仏教行事のことと、阿弥陀仏を本尊とするものが「阿弥陀悔過」です。奈良時代には悔過が盛んにおこなわれましたが、阿弥陀悔過がおこなわれたことがわかるのは、この東大寺阿弥陀堂のほか、多度神宮寺だけです。本史料にみえる「横笛」や「合笙」といった楽器は、奈良時代の各種悔過や、現在の奈良諸寺に伝わる悔過系法会には使用されていないので、たいへん特徴的なものといえます。

卷末に署名がある役僧二名のうち、平栄は占墾地使として天平感宝元年（七四九）に越中國（現在の富山県）へ赴き、国司大伴家持にもてなされました（『万葉集』卷一八・四〇八五）。

【展示写真の紹文】

破不用物

緑帳一条 各八副、長二丈二尺三寸、一条七副、一条八副

緑絶端二条 一条五副、一条六副

布帳三条 一条四副、長三丈二尺、一条各八副、長二丈一尺七寸、

布端一条 六副、長四尺

以上四種、堂土代敷料、破壊不用、
楊花箱二口

磬台花木二枝

破損不用

失物

水精念珠一貫 以天平十七年三月所盜、申送沙弥道隆、

横笛二管 大唐

納紫袋一口 以天平十八年七月廿八日所盜、
合笙二管 斑竹、長一尺七寸、

納沙合纈袋一口

机前 漆

褥一枚 表白綾、裏浅緑綿、表錦

褥一枚 表白綾、裏浅緑綿、古破

香印坐花二球

黒柿櫃二合

布枚綱四条 以上四種時々所失

堂幡二首

小幡一首

右悔過料資財見物并所失状注顕如件

神護景雲元年八月卅日、別当僧聞崇

事知大法師平栄

奈文研所藏乾板

れ変わり、法華經に説かれる觀音の悔過により、前世・現世双方の親にまみえたという展開をみせています。

これにより、現世の所業が原因となり、来世にその結果が必ず現れるという教訓を導いています。

正式な書名は『日本國現報善惡靈異記』。上中下三巻からなる、日本最古の仏教説話集です。薬師寺の僧景戒の撰。弘仁年間(ハ一〇〇~ハ二四)に成立。

興福寺には上巻のみ伝わっており、大正十一年(一九二二)に東金堂から発見されました。巻末に「延喜四年五月十九日午時許写已畢」とあります。本写本は、延喜四年(九〇四)に書写され、それを少し後の時期に改めて写されたものと推測されています。上巻には五世紀後半の雄略天皇の時代から神龜四年(七二七)までの説話が三十五縁(一つの説話を縁と呼びます)収められています。

永野氏が撮影しているのは巻首、第十八縁、巻末です。そのうち、第十八縁は法華經にまつわる現報譚で、前世・現世の因果を説きます。伊予国和氣郡(現在の愛媛県松山市北部)の日下部猴の子が大和国葛上郡(現在の奈良県御所市)の丹治比氏の家に生ま

【第十八縁の読み下し文】

法花經を憶持ちて現報を得奇しき表を示す縁第十八

昔大和国葛木上郡に、一の經を持つ人有り。丹治比の氏なり。其れ生れながら知りて、年八歳以前に法花經を誦持つ。意にただし一の字のみ存つことを得ず。二十有余歳に至りてなほ持つこと得難し。觀音に因りて悔過す。時に夢に見らく「人有りて曰はく「汝昔先の身に伊予国別郡の日下部猴の子と生在りし時に、汝法花經を誦み奉りて燈に一つの文を焼きき。故に誦むこと得ず。今往きて見よ」といふ」とみる。夢より醒め驚きて、思ひ怪びて、其の親に白して曰さく「急に縁有り。伊予に往かむと欲ふ」とまうす。二親聽許す。然うして詣び往き、猴の家に到りて門を叩き人を喚ぶ。すなわち女人出でて咲を含みて還り入り、家母に白して曰さく「門に客人在り。恰も死にし郎の似し」とまうす。聞きて出でて見ればなほし死にし子に疑たり。家



長見てまた怪びて問ひていはく「仁者は何の人ぞ」といふ。

答へて国郡の名を陳ぶ。客人もまた問ふ。答へて具に往の

姓名を告知らす。明に是れ我が先の父母なることを知り、

すなはち長跪きて拝む。猴愛びて喚び入れ、床に居ゑて聴

りて言はく「もし死にし昔の我が子の靈か」といふ。客人

具に夢の状を述べて謂はく「翁姥は吾が先の父母なり」と

いふ。猴また因を語りて示して曰はく「我が先の子の号は

某れ。其の子の住みし堂と読みし經と持たりし水瓶と等是

れなり。」といふ。先の子の聞きて堂の内に入り、彼の法

花經を取りて開き見る。当に誦まれぬ文燈に焼き失せたり。

時に懺悔い、直し奉りて後に、熟然に持つこと得。是に祖

子相見ひて一は妖び一つは喜ぶ。父子の義孝養に失はず。

贊に曰はく「善きかな日下部の氏、經を読み道を求めて、

過現の二生に重ねて本の經を誦み、現に二の父を孝ひ、美

き名後に伝ふ。是れ聖なり。凡にあらず」といふ。誠に知

る、法花の威神と觀音の驗力とを。善惡因果經に云はく「過

去の因を知らむと欲はば、其の現在の果を見よ。未來の報

を知らむと欲はば、其の現在の業を見よ」とのたまふは、

其れ斯れを謂ふなり。

かいじゅうせんじ

そうじょうけいぶつしゃり
あんちじょ

(一卷 重要文化財)

奈文研所藏乾板

貞慶は鎌倉前期の法相宗の学僧。

藤原通憲(信西)

の孫。建久四年(一一九三)、東大寺末寺の笠置寺に

隠棲し、法然の専修念佛を批判して奈良仏教の復興

に尽力したことで知られます。その後、同寺に般若台

を創建した際には、東大寺の重源が、六葉の梵鐘(重

要文化財)と『宋版大般若經』一部を寄進しています。

承元二年(一二〇八)、恭仁京跡の北方の山寺(海住

山寺 京都府木津川市)を再興しました。

承元二年九月七日、貞慶は、「院」すなわち後鳥羽

上皇から水晶製の容器に納められた仏舍利二粒を賜ります。一粒は東寺の舍利(弘法大師空海が唐より

持ち帰ったもの)、一粒は唐招提寺の舍利(鑑真和尚が持ってきたもの)とされます。本文書は、その二粒

の舍利を山城国海住山に安置する旨を記したもので、

貞慶の自筆。なお、貞慶に舍利と届けた「御使長房」は、のちに貞慶の後継者となる藤原長房（覚真）です。

海住山寺

そうちくしんぶつしやりあんちじょう
僧覺真仏舍利安置状

（一巻、重要文化財）

奈文研所蔵乾板

【展示写真の釈文】

仏舍利二粒 納水精塔

一粒 東寺

一粒 招提寺

件舍利者、承元二年 九月

七日、於河内国交野新御堂、

従院所奉請也。御使長房

卿云其色濁者東寺也。其色

澄者招提也云々。今有愚願

奉安置山城国海住山了

承元式年九月九日 沙門（花押）

覚真は俗名を藤原長房といい、実務官僚としての道を歩むと同時に、摂関家の一つである九条家の家司でもありました。承元四年（一二〇一）、貞慶の戒を受けて出家し、仁治四年（一二四三）に没するまでの後半生を、荒廃した海住山寺の復興に尽力しました。海住山寺に残る五重塔（国宝）は、貞慶の遺志を継いで覚真が完成させたものです。

建保二年（一二一四）、師貞慶の一周年忌にあたり、覚真は、仏舍利七粒を海住山寺の五重塔に安置します。七粒のうち二粒は、貞慶が後鳥羽上皇から賜った東寺と唐招提寺の舍利です。これに五粒を加えて五重塔に納めました。



【展示写真の釈文】

海住山寺

五重宝塔安置仏舍利七粒、建保

二年二月三日、当先師登霞周忌、終

供養之、七粒内二粒、先師御相伝

也、其子細在別記、五粒今奉加之、

七粒安置有所表、永莫他散、

沙門覺真

奈良大和路仏像。ボスターは、現在も制作が続いていますので、ご存知のかたも多いでしょ。

永野氏が最初に撮影した第五回（昭和三十一年）の

東大寺法華堂月光菩薩像のボスターは、翌年、「世界

観光ポスター展」で最優秀賞を受賞しました。現物

が残っていませんので、同じ月光菩薩像を写した第

三十一回（四十四年）のものを展示します。第四十六

回（五十二年）は東大寺法華堂執金剛神像、第五十六

回（五十七年）は橘寺日羅像（地蔵菩薩像）を写した

ものです。永野氏は、昭和三十一年から平成三年までの間、二十四回、撮影者となっています。

奈良大和路仏像ボスター（第三十一回）
奈良大和路仏像ボスター（第四十六回）
奈良大和路仏像ボスター（第五十六回）

帝塚山大学所蔵乾板



平成29年度春期企画展「永野太造作品展－草創期の奈文研を支えた写真家－」永野太造展示作品一覧

No.	作品名	乾板所蔵
1	岡寺 仁王門	奈文研
2	岡寺 塑造如意輪觀音坐像	奈文研
3	岡寺 塑造如意輪觀音坐像	奈文研
4	岡寺 塑造如意輪觀音坐像	奈文研
5	岡寺 懸額	奈文研
6	唐招提寺 鑑真和上坐像	帝塚山大学
7	唐招提寺 金堂西鷲尾	奈文研
8	唐招提寺 金堂東鷲尾	奈文研
9	唐招提寺 金堂東鷲尾	奈文研
10	唐招提寺 金堂千手觀音立像	奈文研
11	唐招提寺 金堂諸仏	奈文研
12	唐招提寺 金堂帝釈天立像台座裏落書	帝塚山大学
13	唐招提寺 金堂帝釈天立像台座裏落書	帝塚山大学
14	唐招提寺 勅額	帝塚山大学
15	唐招提寺 金堂	帝塚山大学
16	唐招提寺 中枢伽藍達景（北東側から）	帝塚山大学
17	唐招提寺 経藏と宝蔵	帝塚山大学
18	唐招提寺 鼓樓と礼堂	帝塚山大学
19	唐招提寺 戒壇	帝塚山大学
20	西大寺 如意輪觀音半跏像	帝塚山大学
21	西大寺 大和国添下郡京北班田図	奈文研
22	西大寺 愛染堂木造叢尊（興正菩薩）坐像	奈文研

23	大安寺資材帳	奈文研
24	大安寺 十一面觀音立像	帝塚山大学
25	東大寺 南大門金剛力士像（阿形像）	帝塚山大学
26	東大寺 南大門金剛力士像（吽形像）	帝塚山大学
27	東大寺 俊乗堂阿弥陀如來立像	帝塚山大学
28	東大寺 南大門	帝塚山大学
29	東大寺 大仏殿	帝塚山大学
30	東大寺 法華堂	帝塚山大学
31	東大寺 法華堂不空羂索觀音立像	帝塚山大学
32	東大寺 鐘樓	帝塚山大学
33	頭塔 石仏	奈文研
34	頭塔 石仏	奈文研
35	東大寺 俊乗堂俊乗房重源上人坐像	帝塚山大学
36	東大寺 俊乗堂俊乗房重源上人坐像	帝塚山大学
37	南無阿彌陀仏作善集	奈文研
38	胡宮神社 僧重源仏舍利送状	奈文研
39	東大寺 阿彌陀悔過料資材帳	奈文研
40	興福寺 日本靈異記（上巻）	奈文研
41	海住山寺 僧貞慶仏舍利安置状	奈文研
42	海住山寺 僧覺真仏舍利安置状	奈文研
43	奈良大和路仏像ボスター（第31回）	帝塚山大学
44	奈良大和路仏像ボスター（第46回）	帝塚山大学
45	奈良大和路仏像ボスター（第56回）	帝塚山大学

2017年4月29日

編集・発行 独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒630-8577 奈良市佐紀町247-1

<https://www.nabunken.go.jp/>

印 刷 能登印刷株式会社

